法学部法律学科

氏名	中本幹生（なかもとみきお）	職名	教授	就任年月	2016年（平成28年）9月

【学　　歴】1992年 3月　九州大学理学部物理学科卒業
1994年 8月　九州大学大学院文学研究科哲学・哲学史（倫理学・倫理学史）専攻修士課程修了
1995年10月　ルートヴィヒ・マクシミリアン（ミュンヘン）大学哲学科に留学（1997年7月迄）
1999年 3月　九州大学大学院文学研究科哲学・哲学史（倫理学・倫理学史）専攻博士後期課程単位取得満期退学

【取得学位】修士（文学）

【職　　歴】1996年8月　ルートヴィヒ・マクシミリアン（ミュンヘン）大学日本センター非常勤講師（～1996年8月迄）
1999年4月　九州大学文学部助手（～2001年3月迄）
2001年4月　西南学院大学非常勤講師（～2016年9月迄）
2012年4月　佐賀大学非常勤講師（～2016年4月迄）
2016年4月　九州大学非常勤講師（～2016年9月迄）
（この他、筑紫女学園大学、久留米大学、九州産業大学、純真女子短期大学、福岡国際大学、玉川大学、等にて非常勤講師）

【専門分野】哲学
倫理学
美学

【研究課題】ドイツ近代の哲学、倫理学、美学について

【担当科目】哲学概論
宗教学概論
西洋宗教史
道徳教育の理論と方法
教育実習Ⅰ・Ⅱ

【学会･社会活動】日本哲学会
日本倫理学会
西日本哲学会
九州大学哲学会

【主な研究業績】

区　分 (単・共別)	著　書　・　論　文　名　等	発行所・掲載誌・発表学会等	発行・発表 年　　月
著　書 (共)	よく生き、よく死ぬ、ための生命倫理学	ナカニシヤ出版	2009 年 4 月
著　書 (共)	エシックス・センスー倫理学の目を開けー	ナカニシヤ出版	2012 年 4 月
論　文 (単)	エンハンスメント問題に関する、技術哲学の観点からの一考察　ーF. ベーコン、デカルト、プラトン及びアリストテレスに即してー	筑紫女学園大学・短期大学部　人間文化研究所編『人間文化研究所年報』第 23 号	2012 年 8 月
論　文 (単)	ショーペンハウアーにおける美と有機体論 ーカント『判断力批判』との関わりー	九州大学哲学会編『哲学論文集』第四十八輯	2012 年 9 月
論　文 (単)	『判断力批判』における自然から自由への移行の問題　ー類比および目的関連（nexus finalis）の概念に定位してー	日本哲学会編『哲学』第 64 号	2013 年 4 月
論　文 (単)	自然と人間の関係を問う　ー機械論的自然観、自然の権利、自然崇拝の三つのモデルに即してー	九州大学哲学会編『哲学論文集』第四十九輯	2013 年 9 月
論　文 (単)	道徳教育とカント倫理学　ーシュヴァイツァーの生命畏敬倫理と関連させてー	筑紫女学園大学・短期大学部　人間文化研究所編『人間文化研究所年報』第 25 号	2014 年 8 月
論　文 (単)	カント道徳教育論と批判哲学 ー「自ら作る」という思想に定位したカント『教育学』の位置づけの試みー	玉川大学学術研究所人文科学研究センター編『Humanitas』第 26 号	2015 年 3 月
論　文 (単)	カント教育論における目的論的構造 ーカント『教育学』の整合的解釈のためにー	筑紫女学園大学・短期大学部　人間文化研究所編『人間文化研究所年報』第 26 号	2015 年 8 月
論　文 (単)	カント道徳教育論における「性格の確立」ー心術における革命と斬進的改善の関係の問題ー	西日本哲学会編『西日本哲学年報』第二十三号	2015 年 10 月
論　文 (単)	自律の完成としての道徳教育 ーカントにおける「徳の獲得」の構造ー	日本倫理学会編『倫理学年報』第六十五号	2016 年 3 月
論　文 (単)	「生きる力」の育成における知育･徳育･体（食）育の調和の構造ーカント教育論の視点からの一考察	宮崎産業経営大学 教職課程運営委員会編『宮崎産業経営大学教職課程年報』第 10 号	2017 年 3 月
論　文 (単)	理性理念の統制的使用から反省的判断力の原理へー『判断力批判』における体系的課題の成立ー	日本哲学会編『哲学』第 69 号	2018 年 4 月
論　文 (単)	「アクティブラーニングにおける主体的な知識構成ーカントの哲学および教育論との関わりー」	宮崎産業経営大学 教職課程運営委員会編『宮崎産業経営大学教職課程年報』第 12 号	2019 年 3 月
論　文 (単)	「全脳死の問題と自己の概念」	宮崎産業経営大学 研究紀要刊行会編『宮崎産業経営大学研究紀要』第 30 巻第 1 号	2019 年 12 月
論　文 (単)	道徳教育における崇高の概念	宮崎産業経営大学 教職課程運営委員会編『宮崎産業経営大学教職課程年報』第 19 号	2026 年 3 月